

有栖川宮記念公園

# 今年の調査が終了しました



令和5年7～9月にかけて、3回の生物調査を行いました。

| 採集数を比べると                                                                                         | 2022年9月  | 2023年9月   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|-----------|
| <br>モツゴ(くちぼそ) | 23<br>個体 | 646<br>個体 |
| <br>ブルーギル     | 82<br>個体 | 0<br>個体   |

令和5年1～2月  
外来種の駆除

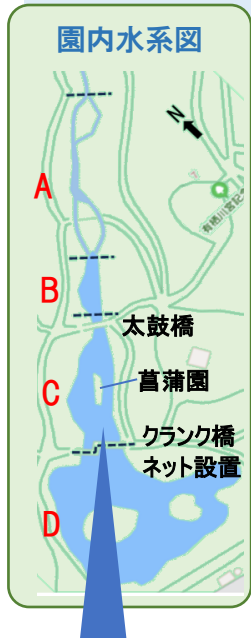
## ブルーギルがいなくなった？

わけではありません！

1,2月に実施したしゅんせつの際に、ブルーギル、ウシガエルなどを駆除した効果か、在来種のモツゴ、スジエビなどの増加がみられました。しかし、捕獲個体数は、調査方法、天気、池の微細な環境の変化などで変動しますので、この数字はあくまで目安です。

ブルーギルが、大幅に減ったことは間違いありませんが、ごく少数でも生き残っていれば、数年のうちに再び増加していくと考えられます。これからも、注意しつつ、モニタリングを続けていきます。

## 園内の水域環境と利用生物



| 地区 | 仮称（水況）     | 主な利用種（魚）       | その他の種                       | 備考                              |
|----|------------|----------------|-----------------------------|---------------------------------|
| A  | 溪流（流水）     | クロダハゼ          | オニヤンマ<br>サワガニ               | オニヤンマが生息する、区内では極めてまれな環境         |
| B  | 太鼓橋上（ほぼ止水） | クロダハゼ          | シオカラトンボ<br>アメリカザリガニ★        | 利用種は少ない                         |
| C  | 菖蒲園（弱流水）   | モツゴ            | スジエビ<br>ウシガエル★<br>アメリカザリガニ★ | 多くの生き物が利用するが、トンボ類のヤゴはほとんど見つからない |
| D  | 本池（ほぼ止水）   | コイ、ヘラブナ<br>モツゴ | クサガメ<br>オオヤマトンボ<br>コシアキトンボ  | コイ、ヘラブナ、カメ類が多数生息。スッポンも繁殖している。   |

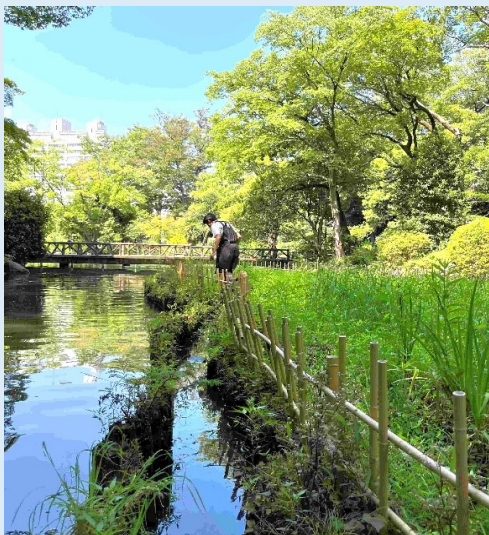
★ 特定外来生物

### C地区が支える 水域環境の 生物多様性

池の生物多様性は、菖蒲園のあるC地区により支えられていると考えられます。杭や水草などにより、産卵や、幼生のかくれ場所として使われているようです。これまでは、コイやフナが入り込んで、卵や幼生が捕食されていたため、クランク橋にネットを付け、C地区への大型魚の侵入を抑えることにしました。

しかし、菖蒲園は、在来種ばかりではなく、ウシガエルやアメリカザリガニも繁殖するため、在来種が、それらに捕食されていると考えられます。今年の調査では、これら2種がたくさん採集・駆除できました。

C地区をのぞいてみると…。



菖蒲園内の多様な環境



生み付けられたウシガエルの卵のう



捕獲されたアメリカザリガニ(左)とウシガエル(右)

今年度調査では、ウシガエルやアメリカザリガニの数を減らすことができました。次年度以降、成果が期待できそうです。

なお、これからも、C地区を、生物多様性のための保全地区として、主に小型の在来種の保護に取り組んでいきます。

### 港区ホームページ「有栖川宮記念公園池の生物調査」

今までの調査結果やお知らせを随時更新中！ぜひご覧ください。

トップページ> 環境・まちづくり> 環境> 都市緑化・自然環境> 生物多様性> 有栖川宮記念公園池の生物調査



クランク橋に取り付けられたネット